

48名に参加していただきました！
令和6年度第3回包括的相談支援事業所連絡会及び地域づくり関係機関研修会

令和7年3月10日、青木会館にて、令和6年度第3回包括的相談支援事業所連絡会及び地域づくり関係機関研修会が開催しました。2課、43関係機関48名のかたが参加され、包括的支援体制の整備から考える包括的相談支援事業と地域づくり事業についての講義と、介護・障害・子ども・生活困窮分野が地区に分かれてのグループワークを行いました。

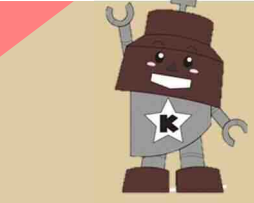
講義では、①相談支援、②参加支援③地域づくりに向けた支援を一体的に取り組むこと。重層事業の基盤となる③地域づくりに向けた支援では、今までのようなコミュニティづくりの手法には限界があり、参加の敷居を下げる“きっかけ”（興味関心をきっかけに参加できること、生活の中の「ふつう」のことをきっかけにさんかできること）に着目すること。個別支援から地域課題の解決を目指した地域づくりと、興味関心から、人・暮らしを中心に据えたまちづくりが重なりあって、いかに地域を作っていくかが大切であるという内容。

グループワークでは、活動していく中での困りごとを、地域の分野外のメンバーができることがないか一緒に考え話し合いを行った。さらに、各グループの成果を共有し、地域外でも解決できることはないか、全員で考えた。同じ地域の分野別の職員と、顔の見える関係ができたのは、もちろんのこと、地域の課題の共有や、今回のグループで定期的に集まる話が出たグループもあり、相談支援と地域づくりが一体となった研修であった。



令和6年度より重層的支援体制整備事業が本格実施となり、関係機関の皆様には多大なるご協力をいただきありがとうございました。次年度も引き続き、世代・属性を問わない地域づくりを一緒に考えていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。





発行元 **福祉総務課 福祉相談支援担当**
電話: 048(259)7947
FAX: 048(255)3188



子ども × 地域 **利用者と利用者OBが一体となったクリスマス会**
～地域の方と作り上げた大成功イベント～

南鳩ヶ谷子育て支援センターにて、子育て支援センター利用者と年齢が到達し卒業された利用者が、一体となったクリスマス会を開催された。

南鳩ヶ谷6丁目自治会のかた10名を招待し、こどもから大人までの異世代が集い、42組133名の0歳から80歳代が参加。演目は、幼稚園児のダンス、ママさんのダンス、ママさん14名によるハンドベル演奏、パパドラマーのリズムあそび、南鳩ヶ谷子育て支援センターを卒業された幼児小学生によるピアノ演奏、最後はみんなでジャンボリーMickey。事前の設営や当日の進行に、小中高生・大人の運営ボランティア8名の協力もあり、23組34名が登壇・運営にかかわっていた。

「ママさんハンドベル」に参加した、生後10か月のお子さんを持つママに話を聞いた。『ハンドベルの募集を見て参加した。みんなとの練習が楽しかった』とのこと。練習の甲斐もあり、とても上手に演奏されていた。子育てママさんのダンスは、本格的なダンスを披露。サンタやドラム・ピアニカ演奏は、利用者のパパさん。イベントに家族で参加されクリスマス会を盛り上げていた。南鳩ヶ谷6丁目自治会の方々は、演目を見ているだけではなく、近くのお子さんに笑顔で話しかけたり、近くに寄ってきたお子さんを抱き、一緒に演目を見る光景はとても微笑ましいものがあった。

利用している乳幼児から卒業した子ども達、パパママさんがとても楽しんで参加されている姿が印象的で、最後のジャンボリーMickeyは、参加者・演者が一体となって盛り上がり、イベントは大成功に終わった。南鳩ヶ谷子育て支援センターのスタッフは4名。支援センターを卒業された子ども達や利用者のパパママさんが、イベントボランティアとして参加し、イベントを大成功に導く一助となっていた。たくさんの利用者、地域のかたをつなぎイベントを開催できたことも、スタッフの日頃からの支援・信頼関係があるからこそと感じたイベントであった。



参加者、演者が一体になって踊ったジャンボリーMickey



つながり ささえあい かわぐち

高齢

子ども

保健

保育園児と100歳体操メンバーとの 花の寄せ植え会

汽車ぽっぽ保育園さざろにある地域子育て支援センターぱれっとで、木曽呂第2町会の100歳体操メンバー9名と3月に卒園するめろん組(5歳児)9名と一緒に寄せ植えを行った。

今回は、地域子育て支援センターぱれっとと、神根保健ステーション、神根地域包括支援センターとのコラボ企画。昨年11月、子育て支援職員研修の際に、「地域と繋がりたい」とお話しされていた、子育て支援センターぱれっとの大吉先生。日頃から繋がっていた神根保健ステーション小柳保健師から、同施設内にある地域包括支援センター佐藤生活支援コーディネーターを紹介し、地域の子ども分野と高齢分野がつながることができ、このイベントが開催することができた。

内容は、めろん組とぶどう組(4歳児)による歌の披露、園児と一緒に寄せ植え実施、めろん組によるけん玉披露、保健ステーションより高血圧の講話であった。

寄せ植えは、初めてのことで何もできない園児がほとんどであったが、100歳体操のメンバーは、日頃よりガーデニングや農業をされていた方も多く、手際よく自分の寄せ植えを完成させたのちに、園児の寄せ植えを園児と一緒に作ってくださった。農業を経験されたかたは、単に土を苗の周りに入れるだけではなく、球根の周りをしっかり土を入れる方がいいと寄せ植えについてのアドバイスをくださり、全員が上手に植えることができた。

園児からのけん玉披露では、今までできなかった技が成功した子や、成功しなくても、応援やほめてくれたことで、緊張していた顔が柔らかくなり、自信がついた様子が見られた。

今回参加された100歳体操の参加者は、保育園近隣に住んでおり、常日頃、保育園を見ていたが、「初めて園内に入った。とても楽しかった」と話された。また、「今度運動会も観に行きたい」と、参加者から、保育園との交流を望む声も聴かれていた。

「地域と繋がりたい」という思いから、イベントの実施へとつながった。研修から高齢・子ども・保健分野との顔の見える関係が広がった。今後の動向を楽しみにしている。



地域づくり通信

令和6年度 第3号

令和6年度「地域づくりトークセッション」の話から立ち上がった 『おなり歌う会』

令和5年度より住民座談会を各包括地区で開催し、令和6年度は、「地域づくりトークセッション」という名を変え、8月4日から12月22日まで開催しました。8月18日の中央包括地区「地域づくりトークセッション」に参加した太田さんが、「音楽ボランティア塾」を立ち上げたいとお話しされた。39年間にわたり小・中学校の音楽教員として教鞭をとられていた太田さん。その後自身で声をかけ、包括主催のボランティア交流会で知り合ったメンバーと一緒に11月より『おなり歌う会』を中央ふれあい館にて立ちあげた。

1月17日金曜日に参加。参加費は、1回1人100円。当日は、インフルエンザが流行していたが、24名が参加。代表の藤田さんをはじめ、スタッフ4名で歌詞の印刷や出欠席や片付けを対応されていた。以前は、講座室1室での開催であったが、参加者が増え、講座室を2部屋借りて開催されていた。1月までは、月に1回の開催であったが、2月より月に2回第1・3金曜日に開催数を増やして実施される。

参加者の中には、「おなり歌う会」の評判を聞きつけ、中央地区だけではなく、元郷や東本郷、南鳩ヶ谷、さいたま市より参加されている方もいた。

時間は、13時30分から14時30分までの1時間。講師の太田さん(のりちゃん)が準備体操から、歌のリード、指導を行う。39年間音楽教員としてやってきた太田さん(のりちゃん)だからこそ、エネルギー溢れる声かけで、場が盛り上がり、常に面白く参加者をひきつけ、笑いの絶えない1時間となった。参加している男性にお話を聞いたところ、スタッフのかたから、紹介を受けて、参加した。「家にいるよりは、音程も関係なく声を出せたらいいと思って、参加した。3回目の参加だが、楽しい。」と話された。笑い声、歌声が響きわたり、表情も笑顔になって、帰られる姿に感銘を受けた。講師の「やりたい」思いから居場所が立ち上がった。今後も活動を応援していきたい。



代表の藤田さん(前列左から1人目、講師の太田さん(前列右から2人目)、スタッフ、中央包括の寺西さん